



mederi、国際生理の日に議員らを対象とした「月経を社会で考える勉強会」を実施

日本初「月経ミュージアム構想」を起点に、医療・行政・企業の視点から女性の健康課題と未来を考える



オンラインピル診療サービス『mederi Pill(メデリピル)』、企業向け健康支援・福利厚生サービス『mederi for biz(メデリフォービズ)』を提供するmederi株式会社(<https://mederi.jp/company>)は、2026年10月19日(月)の「国際生理の日」にあわせ、衆議院第二議員会館にて、国会議員・産婦人科医などの有識者を招いたトークイベントを開催いたしました。

本イベントでは、mederiが月経を社会全体で考える新たなプロジェクト「Period Lab」の取り組みとして、日本初※1となる「月経ミュージアム構想」を発表。この構想を起点に、医療・政策・企業など異なる立場から、女性の健康課題に対する支援の現状とこれからの社会のあり方について多角的な議論が交わされました。

※1: 2026年10月時点、mederi調べ。インターネット上の公開情報をもとに、日本国内における「月経」を主題としたミュージアム構想の公表事例について調査。

■背景

月経は、多くの人にとって身近な身体現象である一方、症状や感じ方には大きな個人差があります。そのため、家族や友人、職場など身近な関係の中でも、互いの経験や困りごとが見えにくいことも少なくありません。

mederiはこれまで、オンライン診療のサービス提供や啓発活動を通じて、月経に伴う痛みや不調を我慢せず、自分の身体を知り、必要なケアを選択できる環境づくりに取り組んできました。

そうした中、代表の坂梨が台湾の月経博物館を訪問。月経を医療や健康の視点だけでなく、歴史や文化、人々の経験を含めて捉える展示に触れ、日本にも月経について自然に学び、話せる場があってもよいのではないかと考えるようになりました。

今回、そのアイデアを「月経ミュージアム構想」として初めて発表し、医療・行政・政策・企業など異なる立場から意見を交わす機会を設けました。

■開催概要

イベント名 国際生理の日 月経ミュージアム構想とクロストーク

開催日 2026年10月19日(月)

会場 衆議院第二議員会館

主催 Period Lab

発起 mederi株式会社

内容:

- ・産婦人科医によるセミナー
- ・厚生労働省による取り組み発表
- ・月経ミュージアム構想展示
- ・国会議員・産婦人科医・企業人事担当者によるクロストーク

■日本における「月経ミュージアム構想」を初披露



「月経ミュージアム構想」の背景や目指す姿の構想に目を向ける来場者



ナプキン、タンポン、月経カップ、吸水ショーツなど、日本国内で展開・販売されている生理用品を展示・紹介

会場では、「月経ミュージアム構想」の展示を行いました。

本構想は、月経を医療や健康の側面だけでなく、教育、働き方、家族、社会制度など、さまざまな角度から捉え、月経について自然に触れ、学び、対話できる場の実現を目指すものです。今回の展示では、構想の背景や目指す方向性の一部を紹介するとともに、生理用品の実物展示を通じて、月経にまつわる多様な選択肢を知る機会を設けました。

今回の展示では、「知る・考える・触れる・語る」の4つを軸に、構想の背景や目指す方向性を紹介しました。今後は、医療関係者、行政、企業、教育関係者、市民など、多様な立場の方との対話を重ね、寄せられた声を取り入れながら、構想の具体化を進めてまいります。

■慶應義塾大学名誉教授・吉村泰典氏が、月経に伴う身体と心の変化を解説



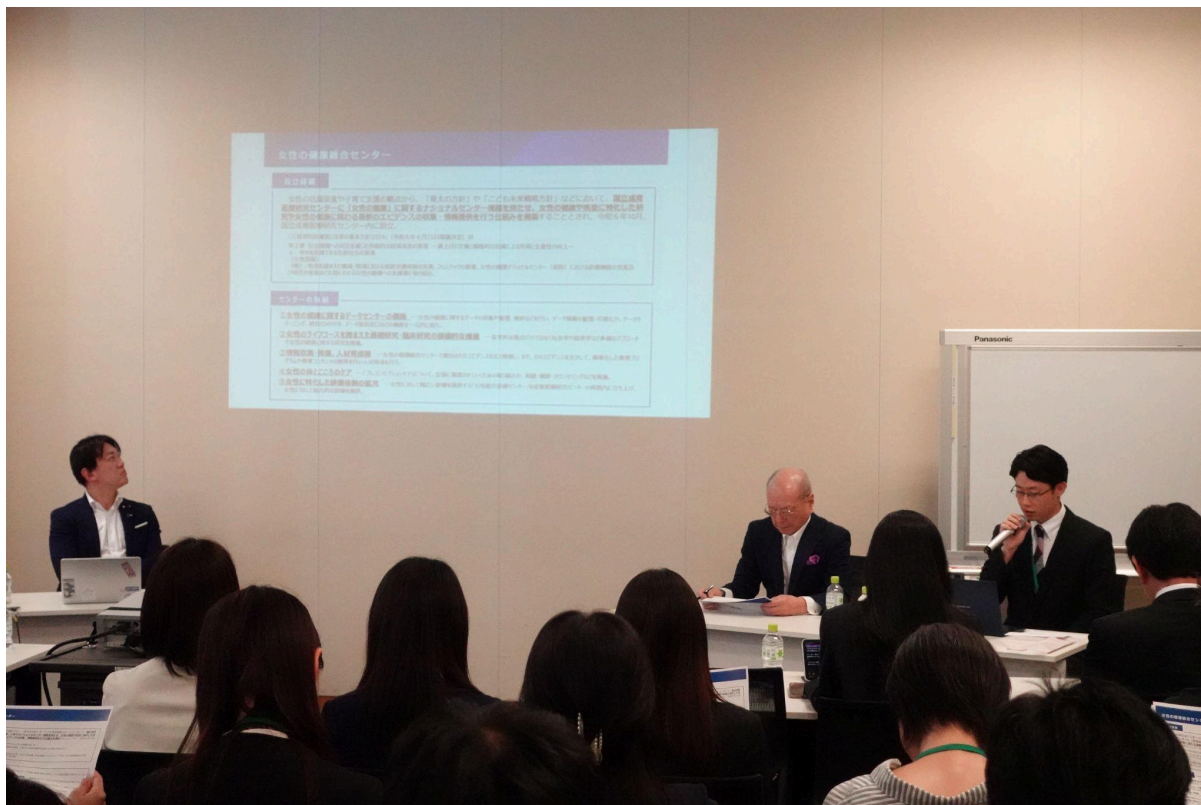
月経の仕組みや心身の変化について解説する、産婦人科医・吉村泰典氏

セミナーでは、産婦人科医／慶應義塾大学名誉教授の吉村泰典氏が登壇し、月経の仕組みや月経困難症、PMS（月経前症候群）、女性ホルモンと健康の関わりについて解説しました。

吉村氏は、月経が脳から分泌されるホルモンと卵巣、子宮の連携によって起こることや、月経周期に伴って身体面・精神面にさまざまな変化が現れることを説明。また、妊娠・出産回数の変化などを背景に、現代女性が生涯に経験する月経回数が増えていることに触れ、月経に関連する健康課題に向き合う重要性を伝えました。

さらに、月経痛やPMSを「我慢するもの」と捉えず、産婦人科への相談や適切な治療につなげることの大切さを紹介。本人だけでなく、周囲の人にも正しい知識を持つことが、女性の健康を支える環境づくりにつながると説明しました。

■厚生労働省より、女性の健康支援に関する取り組みを紹介



女性の健康政策について紹介する、厚生労働省 健康・生活衛生局健康課 主査・壁谷洸希氏

続いて、厚生労働省 健康・生活衛生局健康課 主査の壁谷洸希氏が登壇し、女性特有の健康課題に関する国の取り組みを紹介しました。

発表では、国立成育医療研究センターに設置された「女性の健康総合センター」を中心とする、女性の健康に関するデータの集積、基礎研究・臨床研究、情報発信、診療体制の充実などについて説明しました。

また、性差に由来する健康課題への対応や「攻めの予防医療」の推進、普及啓発サイト「女性の健康推進室 ヘルスケアラボ」、毎年3月1日から8日の「女性の健康週間」などを紹介。女性の健康課題を本人だけの問題とせず、社会全体で支えるための政策動向が共有されました。

■医療・政策・企業、それぞれの視点から考えるクロストーク



クロストークの様子。左から2番目から、坂梨亜里咲、川崎秀人氏、吉村泰典氏、浜村早希氏

イベント後半では、以下4名によるクロストークを実施しました。

衆議院議員／前デジタル大臣政務官／フェムテック議連事務局次長 川崎ひとと氏
産婦人科医／慶應義塾大学 名誉教授 吉村泰典氏
レバレッジズ株式会社 浜村早希氏
mederi株式会社 代表取締役／Period Lab代表 坂梨亜里咲

「月経ミュージアム構想」を起点に、月経や女性特有の健康課題への理解を広げるために、それぞれの立場からできることを議論しました。

企業の人事の立場から、レバレッジズ株式会社の浜村氏は、月経痛やPMSなどの不調を職場で伝えづらいことが、働き方やキャリア形成にも影響しうると指摘。生理休暇などの制度を整えるだけでなく、管理職や同僚の理解を深め、安心して利用できる職場風土をつくる必要性を伝えました。

女性の健康支援サービスを提供する事業者の立場から、mederi株式会社の坂梨は、企業への健康支援サービスの提案や利用者の声を通じて見えてきた課題を紹介。同じ女性であっても月経の症状や経験は異なるため、自分の経験を基準にせず、一人ひとりの違いを理解することの重要性を語りました。

政策を担う立場から、衆議院議員の川崎氏は、女性の健康に関する政策や支援体制を整えることに加え、それらを企業、学校、自治体、個人へと届けることが重要だと説明。また、男性を含むさまざまな立場の人が、月経について学び、発信し、支援に参加できる環境づくりの必要性を述べました。

産婦人科医・教育者の立場から吉村氏は、適切な医療につながるためには、学校教育などを通じて月経や身体について学ぶ機会が欠かせないと強調。女性の健康支援を企業のコストではなく、人的資本への投資として捉える視点も示しました。

議論を通じて、制度、教育、医療、職場風土をそれぞれ切り離さず、多様な立場が連携して取り組むことの大切さが共有されました。月経ミュージアムについても、正しい知識や異なる経験に触れ、対話を始める場として、多くの方とともに育てていく方向性が語られました。

〈mederi株式会社 代表取締役社長 坂梨亜里咲のコメント〉



これまでmederiでは、オンライン診療や啓発活動を通じて、一人でも多くの女性が、月経に伴う痛みや不調を我慢せず、自分の身体について知り、自分らしい選択ができるよう取り組んできました。台湾の月経博物館を訪れた際、月経について自由に知り、触れ、話せる場所があることに、大きな可能性を感じました。月経を医学的な知識だけでなく、歴史や文化、仕事、暮らしとつながるテーマとして捉えることで、これまでとは違う関心や対話が生まれるのではないかと考えています。

月経の感じ方や経験は、一人ひとり異なります。自分とは違う身体や経験を知ることが、身近な人への理解を深め、それぞれの違いを受け入れ合うことにつながるはずです。今回発表した構想は、完成形ではありません。医療、教育、行政、企業、市民など、さまざまな方の声を取り入れながら、その地域や時代に合わせて変化し、育っていくミュージアムを目指しています。

月経を、知る。考える。触れる。語る。月経を経験する人も、しない人も、ともに学び、対話できる場の実現に向けて、多くの方と一緒に可能性を探ってまいります。

■「Period Lab」および「月経ミュージアム構想」について

Period Labは、月経を社会全体で知り、考え、対話する機会をつくることを目指して立ち上げた取り組みです。月経を経験する人も、しない人も参加できる場を通じて、一人ひとりの経験や想いに触れ、理解を深めていくことを目指します。

「月経ミュージアム構想」はその活動の一つとして、月経に関する知識や人々の経験、社会の変化などに触れることができる場の実現を目指しています。

今後は、医療関係者、教育関係者、企業、行政、クリエイターなど、さまざまな立場の方と対話を重ねながら、構想の具体化を進めてまいります。

mederi株式会社 (<https://mederi.jp/company/>)

mederi株式会社は、すべての人が自分の体のことをきちんと知り、大切に、愛でられるように。安心、安全を追い求めながら、心と体のバランスを整えるためのサービスを展開しています。※mederi株式会社は、レバレッジ株式会社のグループ企業です。



■mederi Pill(メデリピル) <https://mederi.jp>

mederi Pill(メデリピル) は生理に悩む女性を中心に54万人以上※1が登録する国内最大級のオンラインピル診療サービスです。スマートフォンひとつで、いつでもどこでも産婦人科医による診療を受けることができ、ピルの処方からお届けまでオンラインで完結します。「誠実な医療」と「続けやすさ」を大切に、初月のピル代無料、診療代はずっと無料。安心して継続いただけるよう、国内最安クラスの価格※2で提供しています。

※1 2026年10月自社調べ。ピル診療に特化した主要オンライン診療サービス4社を対象に比較

※2 2026年10月自社調べ。低用量ピルの同業他社4社の毎月定期便価格における比較(3ヶ月分で比較)

※診療やピルの処方等は保険適用外・自由診療であり、提携医療機関に所属する産婦人科の医師が行います。

■mederi for biz(メデリフォービズ) <https://mederi.jp/mederiforbiz/>

A promotional image for 'mederi for biz'. It features a woman in a light blue blouse holding a smartphone, smiling. In the background, there are two blister packs of pills, one green and one white. A central banner reads '「ピル服薬支援」福利厚生サービス' (Pill Medication Support Welfare Service). Below this, the text 'mederi for biz' is prominently displayed. At the bottom, four service icons are shown in white boxes: 'support 1 オンライン診療' (Online Consultation), 'support 2 ビル処方' (Pill Prescription), 'support 3 ウェルネスセミナー' (Wellness Seminar), and 'support 4 動画コンテンツ' (Video Content).

mederi for bizは、オンライン診療で働く女性の健康をサポートする福利厚生パッケージです。産婦人科医が伴走し、ピルの服薬支援だけではなく、ウェルネスセミナーや効果検証レポートの提供で企業の健康経営を後押しします。

レバレッジズ株式会社 (<https://leverages.jp/>)

本店所在地：東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号 渋谷スクランブルスクエア24階 /25階

代表取締役：岩槻 知秀

資本金：5,000万円

設立：2005年4月

事業内容：IT、医療・ヘルスケア領域をはじめとした人材事業、SaaS事業、M&Aコンサルティング事業 など

「社会課題の解決」を軸に、IT、医療・ヘルスケア領域をはじめとした人材事業・SaaS事業、M&Aコンサルティング事業など、国や業界をまたいだ様々な領域でサービスを展開。2005年に創業以来、黒字経営を継続し2025年度は年商1700億※を突破しました。業界を絞らないポートフォリオ経営と、各分野のスペシャリストが集うインハウスの組織体制で、時代を代表するグローバル企業を目指します。(※会計基準変更後)

本リリースに関する報道関係のお問い合わせ

レバレッジズ株式会社 mederi広報窓口：<https://contact.mederi.jp/corporate>

E-mail: pr@mederi.jp